

令和8年度 刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会

第1回夢ファンド部会 記録

日 時	令和8年6月19日（金） 14:00～16:00
会 場	刈谷市役所804会議室
出席者 (50音順)	熊澤友紀子、近藤義夫、高木一恵、柘植祥史、戸田広二、三輪恒雄、矢田部寿子 *事務局：【刈谷市】神谷課長、酒田課長補佐兼地域支援係長、遠藤係長、 和田、前川 【ボランティアネイバーズ】三島、遠山
議 題	(1) かりや夢ファンド補助金について (2) これまでの実施事業および寄附金について (3) 令和8年度募集の手引きについて（手引きの変更点説明） (4) まちづくり活動支援事業補助金（5万円以下）書類審査

●定刻となり、市民協働課協働推進係長が開会を宣し、以下熊澤部会長による進行に移った。

1. 部会長あいさつ

本日は、まちづくり活動支援事業5万円以下の書類審査を行う。限られた時間の中で、提出されたプロジェクトについて率直な意見を出してほしい。採否や点数だけでなく、いただいた意見についても申請団体へフィードバックとして伝える。審査員として心残りのないよう、多様な視点から意見を寄せていただきたい。

2. 議題

(1) かりや夢ファンド補助金について【資料1】

かりや夢ファンド補助金について簡単におさらいし、今年度のスケジュールについて事務局より説明した。

■質疑等特になし。

(2) これまでの実施事業および寄附金について【資料2-1、2-2】

これまでに実施された補助金活用事業を、スライドを用いて紹介した後、令和7年度のかりや夢ファンドへの寄附実績について、事務局より説明した。

■質疑等特になし。

(3) 令和8年度募集の手引きについて【資料3-1～3-4】

通年で募集をしている「まちづくりびと支援事業(資料3-1)」と、既に募集を締め切っている「まちづくり活動支援事業(申請額5万円以下)(資料3-2)」の募集の手引き、及びかりや夢ファンド補助金全体をまとめたチラシ(資料3-4)を参考に示した。また、8月より募集を開始する「まちづくり活動支援事業(申請額5万円超20万円以下)・NPO法人設立支援事業」の募集の手引き(資料3-3)について、昨年度からの変更点を事務局より説明した。

〈変更点〉

- ・市民だより月刊化に伴い、募集期間を「7月中旬～9月末」→「8月頭～9月末」へ。
- ・「まちづくり活動支援事業」の補助要件「独創性または先駆性がある事業」について、「他事例を参考としても構わないが、団体ならではの工夫が求められる」旨記載。
- ・公開審査会の会場投票への参加資格を「高校生以上」から「小学4年生以上」に変更。
- ・公開審査会の会場投票への参加条件について、「途中入退室不可」を廃止し、「最低3団体以上の

プレゼンテーションを聞くこと」とした。

■説明を受け、以下のとおり意見交換をした。

【独創性・先駆性の基準を明確に】

委員：「独創性・先駆性」の基準について、地域イベントは似通いやすく、既存事例の横展開の度合いの判断が不明確である。地域横断で同様の取組が生じやすい事例もあるし、地域差により同様の取組が妥当となる場合がある。基準が明確になれば、申請側が改善しやすく、採択・不採択の理由説明も容易となる。

事務局：現時点で明確な数値基準は未整備だが、完全模倣的な案件は補助対象外とする方向性を考えている。今後の申請状況を踏まえ、評価基準の整備が必要と認識している。

委員：独創性のある申請は優先されるべきである一方、他地域で効果が確認された取組を自地域で展開すること自体を否定すべきではない。同等の効果が期待できる取組が不採択となれば、公平性の観点から不満が生じかねないため、優先順位や線引きの明確化が必要である。歴史本のように普遍的な効果を持つ事業は地域横断で有益であり、予算制約がある中で審査の透明性を高めるためにも、基準が明文化されるとよい。

【公開審査会の会場投票について】

委員：対象年齢拡大に伴い、広報手法の変更は予定されるか。

事務局：広報手法の大きな変更はない。市内まちづくり事業への小中学生の参加事例が増えており、親を介した参加申込のケースもある。小中学校への直接告知は現時点では予定していないが、付き添いで来場した小学生も参加可能とする運用に変更する。

委員：一般参加者による会場投票はどのように行うのか。

事務局：受付時に配布する投票用紙に、各団体のプレゼンテーション聴講後、「良い」と思う団体を2つ選んで丸を付ける方式である。会場点は審査員評価に加算するが、比率は審査員評価より低く設定する。

委員：点数化は難しいように感じたが、丸をつける方法なら、小学生も判断しやすい方法で良い。

部会長：会場の参加者にも投票に加わっていただくことで参加の意義を持たせる一方、点数への影響は大きくない形としている。

【多様な年代・分野からの応募につなぐ】

委員：中学生であれば5万円規模の事業提案を行える可能性がある。先生等の支援を受け、子どもが自ら地域課題を考えて提案する流れができるとよい。地域課題に主体的に向き合う子どもが参加しやすくなると、より面白い展開になると感じる。

部会長：まちコの研修（つなぎの学び舎）と連携し、かりや夢ファンド補助金応募のためのワークショップを開催するのも有効であると考える。

委員：目標があれば、短期間で採択され実行できるような流れができると良い。学校や地域での小さなことでもアクションが起これば、全体に波及していくのではないかと。観光分野で高校生がプレゼンをしていたような活動が重なっていくと面白い。中学生のポテンシャルはかなりある。

部会長：観光分野での申請はあまり多くなく、まちづくりの裾野が広がるとよい。

（４）まちづくり活動支援事業補助金（５万円以下）書類審査【資料４－１、４－２】

【集計結果を事務局よりお伝え】

委員が事前に記入した審査シートを集計した結果、全団体が基準（審査員の得点平均が12.5点以上）を上回った。この後の審議で、評点を修正することも可能。申請書の内容から読み取れない点や不十分である

とを感じる点については、評価に反映させるか、コメント欄に助言を記入していただくと、団体の成長を促すことにもつながる。

今回はあくまで書類審査であるため、申請書類の内容をもとに審査を行うこととする。なお、全団体が補助対象要件を満たしていることについては、事務局にて確認済。

■上記の結果を受け、各団体からの申請について審議を行った。

1 ママリンク「ママのひとやすみ」 申請金額 50,000円

委員：申請書の「刈谷市内の公共施設にて」「月1回開催」とは、開催場所を固定するのか、様々な地域で開催するイメージか。この地域のこの人たちを取り巻く環境にどのような課題があるのか、その背景が見えにくい。例えば、既存の子育て支援センターのサービスでは対応できず、支援からこぼれてしまう家庭や子どもが存在しており、その課題に対応するためにこのグループを立ち上げる意義がある、といった点が示されると、目的や必要性がより明確に伝わる。

事務局：（申請書4ページ）現在は半城土市民館を中心に開催し、重原地区でも取り組み始めている。今後は参加者が参加しやすい地域へ活動を広げる意向がある。今年4月設立の新団体で、活動方針はまだ流動的とみられる。

委員：私はこの団体の活動を把握していなかったが、こうした取組があるのであれば、より周知してほしいと感じる。行政として、市民へどのように情報を届けるかを検討すべきである。行政の支援については、手続きの煩雑さや「この程度のことで利用してよいのか」というためらいが生じることがあるとの声がある。一方で、子育て支援センターなどの支援に対する不安や懸念が、制度をきちんと理解したうえでのもものなのか、あるいは情報が十分に届いていないことによる戸惑いなのかが分かりにくい。また、行政との連携状況も読み取りにくい。

事務局：子育て支援課が「ママのひとやすみ」事業に後援をしていることは把握している。

部会長：行政と市民活動が適切に連携できるとよい。行政は公平性の観点から、広くあまねくサービスを提供する傾向にあるが、その枠組みでは届きにくい部分を市民活動が補完するという位置づけが明確に示されると良い。

事務局：（申請書4ページ「アピールポイント」）「専門職だけで支えるのではなく、地域の母親やボランティア等の多様な立場が関わることで、同じような立場の人が支え合う」とあり、この点が行政との違いなのではないか。転入してきた方など、周りに知人がいない母親を助けたいという趣旨は読み取れる。助産師や保育士といった専門職の方がメンバーに含まれていると記されているが、子育て支援センターや保育園などとの連携状況については、この書類からは判断できない。

事務局：ボランティアスタッフについては、これから活動を広げる中で、参加者から関わりたい人を募っていく計画と聞いている。

委員：この提案で評価できる点は、参加者が将来は支援する側に回るという「循環型の仕組み」を構築しようとしているところである。一方で、今回の支出に対し自己資金がなく、補助金にほぼ依存している点は懸念がある。この財政構造では継続は難しく、今後の運営に向けて安定した財源確保の方法を検討する必要がある。

委員：参加費300円が収入に計上されている。

部会長：この申請書だけでは、申請者の意図が十分に伝わりきっていない部分がある。5万円の申請は、活動の第一歩を支援するためにハードルを下げて設けられた制度であり、厳密な足切りを目的としたものではない。

- 委員：点数が基準を満たしていれば、信念を持って支援すべきである。単なる希望だけでなく、独創性も評価する必要があるが、独創性は何をもって判断するか。
- 部会長：審査する側も難しい点である。「母親同士の支援が循環していく仕組み」という独創性をもった取組であれば、それを具体的に書くことで行政とは異なる内容と判断できる。
- 委員：地域の個別実情が把握できていない点は申し訳ないが、地域性や背景で行政が把握していることを補足いただけるとバックボーンが分かりやすく、グループを作る意義があることが理解できる。
- 事務局：支援センターは子どもが遊んだり、母親同士の交流、専門職員への相談など、アクティブな活動が多い中、母親が身体を休める場の提供など、一時保育などはあるものの行政が取り組んでいないことに目をつけている。
- 委員：同様な活動は多く展開されている。
- 委員：自身も約2年間子育てサークルを運営し、支援センターでは得られない密なつながりや活動を求めて立ち上げた。近隣ではサークルが活発であった一方、知立市にはほとんどなく、結果として大きな規模に成長し、市長への政策提言にも至った経験がある。この団体にも、場づくりにとどまらず、政策提言につなげてより良い環境づくりを進めてほしいと考える。
- また、産後ケアは刈谷市でも取り組みが進み、非常に有用な事業であるが、まだ利用者は多くないと感じる。ただし産後ケアは1歳以降が対象外となるため、団体としては1歳までは産後ケアの周知を行い、団体の活動としては1歳以上の家庭への支援に力を入れることで、負担が少なく行政とも連携しやすくなると思う。
- 団体のInstagram投稿履歴によると、当初はリトルハウスやプレイパークの告知から活動が始まっている。提案内容は、知多市の「夢見るママ」が実施している「ママのひとやすみ」事業と同じ名称であり、刈谷市でも展開しようとしている可能性がある。その場合、主体がどちらなのか、また両者の関係性が不明であり、提出書類に記載がないため気がかりである。
- 委員：リトルハウスは協働団体として記載がある。
- 事務局：申請書類には書かれていないが、知多市の事例も参考にしたと聞いている。
- 部会長：今回の事業だけでなく、これからの団体の将来を見据え、子育て団体の先輩として良いアドバイスをいただけると良い。
- 委員：「ママのひとやすみ」だけでなく、「パパのひとやすみ」も可能なら加えていただいてもよいのではないかと。実施が難しい背景はあるかもしれないが。
- 事務局：現時点では、体を休めるスペースが同室であるため、女性の方のみを対象にしている。今後の広がりや反響を見て、検討していきたいと聞いている。
- 委員：まずは地域で、自分たちの周りの悩んでいるお母さんたちと集まって活動してから、全体に声をかけていくのが自然だが、申請書ではいきなり刈谷市全体が対象のように書かれている。
- 事務局：団体の考えるスピード感については把握できていない。
- 委員：今後の発展性や継続性の展望として、どのエリアで、何人規模でやるかといった具体的なイメージがあると分かりやすい。
- 事務局：令和8年6月開催分の参加申込者は4組ということで、少しずつ増えている感覚はある。

2 SUN・GO「SUN・GOで働く自分を想像しよう」 申請金額50,000円

- 委員：今回の申請のうち3事業に共通する母体団体がある。プロジェクト的に団体を作り、補助金を

申請していくのはいかなものかという懸念がある。

事務局：SUN・GOの申請事業は、あきんどマルシェに出店して中高生にアルバイト体験をさせる事業であり、出店料やアルバイト代はSUN・GOからの支出として申請が出てきている。またアルバイト先はあきんどマルシェに限らず、青少年子ども家庭育成協会が実施する事業に派遣することもある。母体団体である「らっこちゃん親の会」との関係性については、親の会の活動の中でSUN・GOや青少年子ども家庭育成協会が実施している活動を行っていたが、親の会の活動目的からズレてきたため団体を分け、それぞれ異なる別団体として運営している。

部会長：団体としては別団体である。

委員：一つの母体を3つに分けて補助金申請しているように見えると不正を疑われかねないので、そこは慎重になるべきではないか。

委員：活動が分岐してきたため、母体団体の代表は親の会の会長を続けつつ、支援する形をとる。活動目的が変わってきたため、団体を分岐させたという理解で良い。

委員：趣旨が異なるなら別団体でも良い。ただし、バックボーンが資料からは分かりづらい。ヒアリング段階で問題なしという前提で出てきているという理解で良いか。

事務局：良い。

部会長：小規模に始めたものが事業部のように分かれていくのは自然なことである。事業部ごとに目的や対象は変わり、横の連携も生じる。つながり感は資料では判別しにくいので、問題なしという前提で良いか。

委員：相乗効果で良くなるなら良いが、不正を疑われるようなことは避けていただきたい。あきんどマルシェ出店店舗でのアルバイト体験について、対象人数がどの程度か分からない。昨年度は収入や活動内容も0との記載がある。母体の団体でSUN・GOさんと同様の活動をしていたとのことだが、中高生のアルバイト体験を何人受け入れる予定なのか。

事務局：らっこちゃん親の会で実施していた際の対象者は対象ではなくなってしまった（大人になってしまった）ため、参加者は今後新規で開拓していく予定で、受け入れは月1回1名から開始するとのこと。

部会長：最初は月1人で、徐々に増やす想定だろうが、受益者が少ないという評価になる可能性がある。

委員：出店料などで体裁は整っているが、今後何人をサポートできるか等の具体性が不足しており、計画性に課題がある。具体的な数値を示さないと審査できない。思いは書いてあるが、思いだけでは審査はできない。

部会長：全体的に将来像や理念が中心で、事実として何が問題で、何人に、いくらで、どう実施するかが弱い。主体性や公益性の設問に合わせて綺麗な言葉を並べた印象があり、実態が見えにくい。

委員：資料からは規模が把握しづらい。スタート段階で人数が少ない団体に対して、安易に人数を増やせば問題になる可能性がある。対応可能になったら徐々に、というように、今後の展望として目指す姿があると分かりやすい。

部会長：事前学習や事後の振り返りを行うのかどうか記載がない。どんな人が来るか、いつ、どのように実施するかがまだ決まっていない状況で、期待を込めて採択するのか。次の団体とあわせて、一つの団体として20万円以下の枠に応募していただく考え方もある。応募するために団体を分けているといった不正なことではないようにしていただきたい。

事務局：申請書の「事業内容」欄に「終了後に支援者と振り返りをする」と記載がある。

部会長：全体的に言えることだが、皆さんは「こうなったらいいな」といった定性的な目標が中心で、

定量的な数値目標や過去の実績分析といった点が苦手な方が多いと感じる。審査する上でも、人に伝える上でも、事業が社会的に良いものか判断しづらい。事務局がサポートしていただけると良いのではないかな。

委員：自分たちの団体だけでなく、広く一般に募集されているか、公益性を確認したい。もし広く募集するのであれば、チラシのデザインも工夫が必要ではないかな。

部会長：補助金を活用してイベントを開催する場合、例えば3年後の活動の展望、対応するスタッフ数等、目標や数値を具体的に記載する様式にすれば、こうした議論も減るのではないかなと思う。

委員：予算内訳について、大まかな金額しか書かれていない団体が多い印象である。以前、補助金を使いきれなかった団体もあったので、お金をいただく以上、見積に近い額を内訳に記載していただきたい。また、「中高生バイト代」はその他経費ではなく謝礼金に分類されるのではないかな。

事務局：中高生バイト代については、団体が教育委員会に確認し、「労働の給料」ではなく、「交通費や活動の記念品」程度とすると聞いている。

部会長：人件費の場合、源泉徴収の問題も出てくる。将来的に団体の運営や会計報告時には必ず必要になる知識なので、どの項目に含まれるのか、なるべく正しく記載されている方が良い。

3 青少年子ども家庭育成協会「今を遊ぼう、将来を知ろう kodoikku」 申請金額50,000円

委員：会員限定の事業があるが、会員の方のみが対象となれば公益性があるとは言えない。夏の交流会を誰でも参加できるように変更するか、他の公益性の高い事業に活用いただきたい。

委員：会員は何人くらいか。障がいをもつ方に限られるのか。

事務局：会費1,200円の会員制度があり、団体の目的に賛同した人なら誰でも会員になれる。障がいの有無で区別はされていない。事業収入として年会費10人分（1,200円×10人）、夏の交流会の想定参加人数が30人のため、会員の目安となる。設立して1年ほどの団体である。

4 おがきえっこくらぶ「地域で遊び地域で育つ『おがきえっこクラブ』」 申請金額50,000円

委員：子ども会が閉会してしまうことはよくあるのか。

委員：小学校の生徒数は増えているが、近隣の子ども会はなくなっていると聞く。

事務局：今年4月現在、市内の子ども会連絡協議会には37の子ども会が加入している。大人の都合により地区ごとの脱退が増えている。

委員：自治会からの支援（3万円）があり、連携できている。年間を通して多くの事業を計画しているが、スタッフは3人とある。子どもの安全面を考え、スタッフの配置やボランティアの依頼など体制が具体的に書かれているとよかった。

委員：地域に点在する組織が横の連携を取り、より大きな活動ができれば好ましい。今後、商店街や防災ボランティアなど、他の組織とどう連携していくか。地域課題を包括的に解決していく流れは大切である。

事務局：地域の他の子育て支援団体や老人会などがサポートしてくれる、と記載がある。団体だけでなく、地域の方々の協力も得て活動している。

部会長：今回申請のあった5団体のうち4団体が子育て支援に関わるものであった。事業を知っている人は応募しやすい一方で、知らない人の応募には繋がりがづらいという状況もある。

5 交差点部「交差点部×soleits 刈谷の活動をつなぐプロジェクト」 申請金額50,000円

部会長：市民ボランティア活動センター（以下、ボラセン）による様々な活動を紹介するサイト（かりや衣浦つながるねット）との違いとしては、「ソレイツ」アプリで団体同士のつながりを作り、各団体の思いや背景を伝える点にある。踏み込んだ特徴を持つものは他にはなく、素晴らしい取り組みだと考える。

委員：それぞれ活動内容は異なるが、ボラセンの既存の活動を知らないでやろうとしているのか、知っていて敢えてやっているのか。課題を理解して直そうとしてやるのとでは、全く異なる。

委員：多様な市民活動や地域活動が色々行われている。

事務局：初めて活動を立ち上げる方たちは、自分たちで課題を見つけ、これから始めようとしている段階である。ボラセンの活動にはない部分を補おうという形ではないか。

委員：代表の方はボラセンを利用してかれており、ボラセンでの取組はよくご存知のはずであって、その中で不足している部分を補おうとしているのではないか。申請書には書かれていないが、やりたいことが少し異なり、こういった団体が立ち上がって新しい試みを始めたのだと捉えている。

部会長：今回の議論の中心は、申請書が団体の思いを作文のように綴ったものが多いため、客観的な根拠や数字に乏しく、審査が難しいという点にある。しかし、5万円以下の申請枠ができた経緯としては、なるべく簡易な審査で、始めたばかりで不慣れな人でも思いがあれば応援したい、という趣旨であった。5万円以下枠の審査では、申請書から読み取れる範囲で、新たに生まれた団体の「やってみよう」という思いを汲むべきかが問われている。申請書類の作成がきちんとできる方は20万円の枠に応募いただければよい。現状、5万円以下の申請書が20万円以下のものとほとんど様式が同じであることに無理があり、審査も難しい。これは来年度以降の課題として明確になった。

委員：書類審査だからこそ、きちんと書ける人が書くべきではないか。20万円の場合は公開審査会で直接プレゼンを聞くことができるが、こちらは文章で読み取るしかない。フォーマットの見直しは確かに必要だと感じる。将来のビジョンや5年、10年計画のような目標値が示されていると、もう少し分かりやすくなる。

委員：自己資金10万円がほぼアプリ費用に充てられている。今後補助金がなくなったら、来年度以降アプリの継続使用やアップデートができなくなるのではないかと懸念がある。

委員：アプリのダウンロードで課金するなど、収益化が想定されるのか。プラットフォームとして登録や情報発信を担う際に何らかの利用料が発生し、それが運転資金となって活動が広がっていくのかどうか。

委員：支出の半分以上がアプリの「修正費」となっており、しかも外部委託で非メンバーに依頼する形である。すでにあるアプリの修正に12万4,600円かかるのか。最近はノーコードで誰でも簡単にアプリが作れる時代だと聞く。12万4,600円という費用の妥当性が全く分からない。修正費の適切性が判断できないため、評価が非常に低くなってしまった。

委員：予算については、さらに確認が必要である。また、「交差点部」と「ソレイツ」運営の関わり方が曖昧で、どちらが母体なのか、どういう役割分担なのかが分かりにくく、情報が混在している印象がある。

事務局：「ソレイツ」は市民の「出かけたい」という思いと、市民団体の「イベントに来てほしい」という思いを繋げるためのアプリである。「交差点部」は対面で開催する団体のつながりを作る

ことを目的としたコミュニティで、その記録をウェブアプリに公開している。交差点部に来てくれた団体の情報や、交差点部が企画したイベント内容等を「ソレイツ」に掲載する。

委員：この外部委託の非メンバーというのは、おそらく「ソレイツ」を開発した人ではないか。

事務局：団体メンバーへの支払いではないことを明確にするために、このような書き方になったと思われる。

委員：ある程度の知識がないとアプリを修正するのは難しいので、専門的なスキルを持つ方に依頼しているのではないか。

委員：仕事でノーコードツールを扱っている人なら、ごく短時間でできてしまうかもしれない。

部会長：全体的に、チラシ 3 万 3,000 円（300 部）など、お金関係の費用の妥当性には疑問が残る。アプリ修正費用も含め、次回申請する際は見積もりを取るなど、その点を明確にしてほしい。

■以下、これまでの議論を受け、部会長よりまとめがされた。

- ・駆け足ではあったが、5 団体すべてに対してご意見をいただき、感謝申し上げる。本日の議論を通じて、5 万円以下の書類審査の難しさや、現行様式における課題が明確になった。申請書のみでは、団体の経験やビジョンが十分に伝わりづらいことを改めて認識する機会となった。
- ・今回の 5 つの申請事業については、採択とすることでよい。審査の結果、採択団体は 5 団体、条件付き採択はなしとする。本日審査した団体には、後日、事務局より文書にて審査結果を通知する。
- ・最後に、8 月より 20 万円以下の申請募集が開始される。近年は防災や子ども支援に申請が偏る傾向が見られるため、観光や高齢者支援など、多様な分野でまちづくりを支える団体にも挑戦してもらえよう、皆様の関係先にも積極的に声をかけていただきたい。

■審議の結果、以下の通り決定した。

まちづくり活動支援事業(5 万円以下)の申請について、5 事業全てを採択とする。

条件付き採択は該当なし。

〈まちづくり活動支援事業(基準点:12.5 点)〉

申請順	団体名	事業名	合計点	採否
1	ママリンク	ママのひとやすみ	19.57	採択
2	SUN・GO	SUN・GOで働く自分を想像しよう	19.14	採択
3	青少年子ども家庭育成協会	今を遊ぼう、将来を知ろう kodoikku	19.86	採択
4	おがきえっこクラブ	地域で遊び地域で育つ「おがきえっこクラブ」	18.71	採択
5	交差点部	交差点部×soleits 刈谷の活動をつなぐプロジェクト	18.57	採択

3. 今後の予定

(1) 第2回夢ファンド部会

11月20日(金) 10時～ @刈谷市役所 6階 603会議室

(2) 第3回夢ファンド部会(公開審査会)

令和9年1月23日(土) 午後予定 @刈谷市民ボランティア活動センター 以上